

最終1月 東大本番レベル模試 英語採点基準

記述問題の採点は問われた内容にほぼ正しく答えているかどうかで判断することを原則とし、表記上の些細なミス（例えば、iの点やtの棒の脱落など）は減点しない。

配点表

大問	小問	配点	問題数	小計	大問ごと
1	A 要約	10	1	10	22
	B(ア) 記号	各2	5	10	
	B(イ) 単語記入	各1	2	2	
2	A 英作 (ア)(イ)	各6	2	12	22
	B 英作 (ア)(イ)	(ア)6 (イ)4	2	10	
3	A 記号	各2	5	10	30
	B 記号	各2	5	10	
	C 記号	各2	5	10	
4	A 記号	各3	4	12	24
	B(ア) 説明	3	1	3	
	B(イ) 和訳	4	1	4	
	B(ウ) 和訳	5	1	5	
5	(A)(B)(F)(H) 記号	各2	4	8	22
	(C) 説明	3	1	3	
	(D) 説明	3	1	3	
	(E) 記号 (完答)	3	1	3	
	(G) 和訳	3	1	3	
	(I) 記号 (完答)	2	1	2	
合計					120

【1】-A (10点満点)

【例1】

我々が望ましい状態や感情より苦痛や不幸に対してはるかに敏感であるのは、人類の祖先が危険を回避するために脅威に過剰反応し安全な現状には満足したという、進化の過程に由来する。(85字)

【例2】

人間は肯定的な刺激よりも否定的な刺激の方により注目しがちである。その理由は、私たちの祖先が、進化の過程の危険な世界で脅威に過剰に反応することで安全を求める選択をしたからである(88字)

必須項目 (10点)	<p>① 「否定的な出来事、感情、思考は肯定的なものよりもはるかに強力であり、人は<b>否定的なこと</b>に対してとても<b>敏感だ</b>」(2点)                  Negative events, emotions, and thoughts are far more powerful than those that are positive.                  We are so <u>sensitive</u> to <b>negativity</b>                  ▶ 「<b>否定的</b> (なこと)」 (<b>negative / negativity</b>) に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「ネガティブ/マイナスの/後ろ向き/消極的」などは <b>negative</b> と認める。                  × 「不幸/苦痛/災難」だけでは「否定的」と認めない。</p> <p>①' 「否定的刺激の方が肯定的刺激よりも<b>注意</b>を引き、<b>共感</b>を引き起こす」(2点)                  Negative stimuli command more <b>attention</b> than positive stimuli.  <b>Empathy</b> is more readily triggered by negative stimuli than by positive                  ▶ 「<b>注意</b>」 (<b>attention</b>) または 「<b>共感</b>」 (<b>empathy</b>) に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「注意」は「注目」でもよい。                  ○ 「共感」は「同情/感情移入」でもよい。                  ○ <b>sensitive</b> 「(否定的なものに) <b>敏感だ</b>」はこの項目に相当するものと認める。</p> <p>② 「我々の祖先は<b>脅威</b>などの否定的な出来事に<b>過剰反応</b>することにより<b>安全</b>な側を選んだ」(6点)                  In the environment of our ancestors, there was a huge imbalance of consequences in which the cost of <b>overreacting</b> to a <b>threat</b> was far less than the cost of underreacting, so they chose to stay on the <b>safe</b> side by <b>overreacting</b> to negative events.                  ▶ 「<b>過剰反応</b>」 (<b>overreacting</b>) に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「大げさに反応する/オーバーに反応する」などは「過剰反応」と認める。                  × 「反応」だけでは「過剰反応」と認めない。                  ▶ 「<b>脅威</b>」 (<b>threat</b>) に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「危険/恐怖/威嚇」などは「脅威」と認める。                  × 「野蛮/不均衡/不安定/リスク」は「脅威」と認めない。                  × 「否定的 (なこと)」は「脅威」と認めない。                  ▶ 「<b>安全な</b>」 (<b>safe</b>) に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「危険でない」は「安全な」と認める。                  ○ 「大事をとる、リスクを回避する」は「安全な側を選ぶ」と認める。                  ○ chose to stay on the safe side の意識に相当すれば「安全」がなくても許容する。</p>
---------------	--

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【1】-B (イ)

(X) giants (Y) patent(s) / shoulders 以外不可。綴りの誤りは1字でも不可。

【2】-A (ア 6点 イ 6点 計12点満点)

(ア)

【例 1】 To master something, you need at least ten thousand hours of practice. So it's better for parents to have their child do one thing only from early childhood. (28 語)

(何かを習得するには、少なくとも1万時間の練習が必要だ。だから、親は子供に幼い頃から一つのことだけをやらせる方がいい)

【例 2】 If I had focused on acquiring just one skill when I was little, I might have developed it to my full potential by now. (24 語)

(僕が小さかったとき一つの技能だけを獲得することに集中していたら、今頃は潜在能力の最大限までそれを伸ばしていたかもしれない)

(イ)

【例 1】 Learning different things can help you improve each performance. Moreover, some skills may connect with each other and form a new skill in the future. (25 語)

(異なる物事を学ぶことは、それぞれの能力の向上に役立つ可能性がある。さらに、将来いくつかの技能が結びついて新たな技能を形成することもある)

【例 2】 In the first place, how do you know what talent you have without trying something? You just haven't found one yet, so you don't have to be so negative. (29 語)

(そもそも、何かをやってみないで自分にどんな才能があるかどうかやったら分かるだろう？ あなたはまだそれを見つけていないだけだ。だからそんなにマイナス思考になる必要はない)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(各20語~30語)を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で以下のポイントを満たさないものは、それぞれ該当の点数を減点。

(ア)

**ポイント** 「私は時間と努力を無駄にした」に沿った発言(6点)

\* 「私は時間と努力を無駄にした」にまったく関係がないものは**6点減点**。

\* 逆の意味になっているものや、話の流れに沿っていないものは**3点減点**。

(イ)

**ポイント** 「たくさんの習い事をするのは時間と努力の無駄ではない」に沿った発言(6点)

\* 「たくさんの習い事をするのは時間と努力の無駄ではない」にまったく関係がないものは**6点減点**。

\* 逆の意味になっているもの、話の流れに沿っていないものは**3点減点**。

【2】－B (ア 6点 イ 4点 計10点満点)

ア

【例1】 Experts give out advice to others for everything, but they often fail to behave accordingly.

(専門家は他人にはあらゆることに対して助言をするが、自分はそれに従って行動できないという場合がよくある)

【例2】 Experts give advice to others in various ways, but many of them don't act on what they themselves say.

(専門家は他人にいろいろ助言を与えるが、彼らの多くは自分自身が言うことに沿って行動しない)

【例3】 We often see an expert who advises others a lot but does little for himself/herself.

(他人にはたくさん助言するが自分ではほとんど実行しない専門家を見かけることも多い)

イ

【例1】 It strikes me how well people in the Edo period put it.

(江戸時代の人は何とうまく言ったことかと私は思う)

【例2】 I admire the way those traditional sayings express it concisely.

(それらの伝統的な言い回しがそれを簡潔に表現したやり方に私は感心する)

【例3】 I'm impressed with the smart way people in the past expressed it.

(昔の人々がそれを表現した賢い方法に私は感銘を受ける)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは1点減点、重大な誤りは2点減点。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の区分を目安に得点を配分する。

(ア)

①「専門家というのは、他人にはあれこれ助言する」 (2点)

②「が、自分のこととなると」 (2点)

③「行動が伴わないことも多い」 (2点)

(イ)

④「昔の人はうまいこと言ったものだなあ」 (2点)

⑤「と感心する」 (2点)

【4】－B（ア）（3点満点）

<問題>

下線部(ア)の語が表す内容を 20 字程度の日本語で説明せよ。

... not from the message—the words spoken—but from the metamessage or hidden meaning, which grows out of their shared history.

<例 1 >

これまでの関係から生ずる，言外の意味。(19 字)

<例 2 >

共有する過去に起因する言葉の奥に隠れた意味。(22 字)

- ① 10 字以下，または 30 字以上は 0 点。
- ② 次の (1) (2) が必須項目。

(1) **hidden meaning** に相当するもの。(これがないものは **1 点減点**)

○hidden の意味は「隠れた／隠された／裏の／奥の」など認める。

×meaning に「こと／もの」は不可。

○「隠れたメッセージ」は **hidden meaning** と認める。(採点例 1)

×metamessage の訳語（「言葉を超えたメッセージ」など）だけを答えたものは認めない。

(2) **which grows out of their shared history** に相当するもの。(これがないものは **2 点減点**)

○「これまでの関係から生ずる」など意味が合っていれば認める。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題部分> she was のあとに省略されている内容がわかるように訳せ。

it's also possible that she was and preferred not to admit it

<例 1>

彼女が夫の選択に批判的な感情を持っていながら、それを認めようとしなかった、ということも考えられる。

<例 2>

彼女は不満を感じていたものの、それを認めたくなかったということもあり得る。

区分	配点	具体事例
it's also possible that ... …こともありうる	1点	×it が that 以下を指す形式主語だとわかっていないものは不可。 ×also の訳抜けは不可。 ○possible は「可能性がある／だろう／かもしれない」など可。
she was [feeling disapproval] 彼女が不同意だった	1点	×she wasの後にfeeling disapprovalが省略されていることがわかっていないものは不可。 ×she の訳抜けは不可。 ○feeling disapproval の訳は広く認めるが、×「 <u>そう</u> 感じていなかった」(disapproval の訳がないもの) は不可。
and preferred not to ~ そして[それを認め]ないことのほうを好んだ	1点	×andがwas と preferred を結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。 ○「～したくなかった／～しようとしなかった／～するのを好まなかった」なども可。 ×過去時制以外は不可。
admit it それを認める	1点	○admit に「受け入れる」は可。×「賛成する」は不可。 ×it は「それ、そのこと」でよいが訳抜けは不可。 ×it が「自分が不同意であること」以外を指しているものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（ウ）（5点満点）

<問題部分>

to the extent that the disapproval comes through, such indirect means of communicating can make for more arguments, and more hurt feelings on both sides

<例1>

その非難の気持ちが相手にどの程度伝わったかによるが、こうした間接的な意思伝達はさらなる口論の元になり、どちらもさらに感情的に傷つくことがある。

<例2>

不同意であることが伝わるからには、そのような間接的な伝達手段は、さらなる言い争いを助長し、双方の感情をさらに傷つけかねない。

区分	配点	具体事例
to the extent that ... …程度まで	1点	○to the extent that の訳は「どの程度だったかにより／限り／からには／～の結果」など認める。 ×that 節が through までだとわかっていないものは不可。
the disapproval comes through 不同意が伝わる	1点	○disapproval の訳は「不賛成／非難」なども認める。 ○comes through の訳は「伝わる」というニュアンスがあれば認める。
such indirect means of communicating そのような間接的な意思伝達の手段は	1点	×indirect に「ダイレクトでない」は不可。 ×such の訳抜けは不可。 ○communicating の訳は「コミュニケーション」も認める。
can make for more arguments より大きな論争[や双方のより傷ついた感情]へ向かう可能性がある	1点	×can に「～できる」は不可。 ○make for は「生む／作り出す／元になる」など認める。 ×more（比較級）の訳抜けは不可。 ○arguments は「論争／言い争い／口論／議論」など可。
and more hurt feelings on both sides や双方のより傷ついた感情	1点	×and が more arguments と more hurt feelings を結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】-(C) (3点満点)

<問題>

下線部(C)の具体的な内容を、30字程度の日本語で説明せよ。

But now she was beyond that.

<解答例>

病状が悪化し、小さい器に入れたスープも飲めなくなっていた。(29字)

<別解例>

今や彼女は少量のスープも飲めない状態になっていた。(26字)

- ① 20字以下または40字以上は0点。
- ② 次の(1)(2)が必須項目。

(1) 「(少量の) スープも」に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)

○ 「少量の」はなくてもよい。

(2) 「飲めなく [食べられなく] なっていた」に相当するもの (これがないものは**1点減点**)

○ 「拒否する/拒絶する/受け付けない」なども可。

× 「吐き出す」「まずいと言う」などは「飲めなくなっていた」と認めない。

【5】-(D) (3点満点)

<問題>

下線部(D)の意味を、his が何を指すかわかるように日本語で書け。

his that kept delaying its arrival

<解答例>

なかなかやって来ようとしないエズラの人生

<別解例>

実際にはまだ何も経験していない彼の人生

- ① 次の(1)(2)が必須項目。

(1) 「彼の人生」(his life) (これがないものは**2点減点**)

× his の訳抜けは不可。

○ Ezra の訳は不問。Ezra のままでもよい。

× his は「彼の/エズラの」でよいが、Ezra 以外ととっているもの(「スカーラッティの」など)は不可。

(2) 「なかなかやって来ようとしない」に相当するもの。(これがないものは**1点減点**)

○ 「まだ何も経験していない」なども可。

○ 「じっと静止したままの」(standing still に相当)は「なかなかやって来ない」と認める。

× arrival を「到着」と訳しているものは内容を適切に表さないので原則認めない。

【5】-(G) (3点満点)

<問題部分>

下線部 (G) を和訳せよ。

Why, you look the picture of health!

<例 1>

まあ、健康そのものという様子ね！

<例 2>

あら、健康を絵に描いたような顔つきじゃない！

区分	配点	具体事例
Why あら	1点	○Why は「まあ／おや」など、驚きなどを表す間投詞としての訳語を広く認める。 ○Why に「なぜ、どうして」は不可。
you look (あなたは) ～に見える	1点	○look は「～に見える」というニュアンスがあればよい。「健康そのもの <u>ね／じゃないの</u> 」など可。
the picture of health! 健康そのもの	1点	○「絵に描いたような健康」なども可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。